

# 森づくりサポートニュース NO1

## ■ 第1回活動日の様子 2001.11.4 (日)



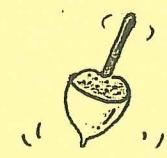
チップの取除きと寒肥やり作業

当日は、大人48人、ガールスカウト40人、守山市緑の少年団23人あわせて111人のみなさんが参加をしてくださいました。

植栽会場の東側斜面のチップの取り除きや寒肥やりは、けつこうハードな作業でしたが、みなさん熱心に取り組んでくださいました。

子どもたちは、午後から森づくりセンターで自然教室に参加しました。

木の実が繁殖するために持つ能力やしくみについて学んだり、どんぐりコマ作りにも挑戦しました。



自然教室

## ■ 「びわこ地球市民の森」での活動予定

- |                  |                |
|------------------|----------------|
| ・平成14年 3月24日 (日) | 土壤改良と堆肥作り、自然教室 |
| ・平成14年 7月下旬      | 除草と病害虫防除、自然教室  |
| ・平成14年10月下旬      | 植樹、寒肥やり、自然教室   |

## ■ トピックス (みどりの日の行事のお知らせ)

①平成14年4月29日 (みどりの日) 午後1時30分から、第50回目となる滋賀県植樹の集いを記念して、近江八幡市の市立文化会館でグリーンセンチュリーコンサート (芹洋子さんのコンサートと芥川賞作家新井滿さんの講演など) が開催されます。みなさんは、後日、案内状と入場整理券をお送りしますのでお楽しみに。

②緑化樹に興味のある方は、同日、大津市瀬田の県立びわこ文化公園で、みどりの日のつどいが開催され、緑化樹の展示即売会、苗木・花の種の配布、お茶会 (無料) などが行われます。

(事務局)

# 森づくりサポートニュース NO.2

■第2回活動日は 2002.3.24 (日)

## 苗木の植え替え作業



ガールスカウトは、午前中自然教室に参加した後、午後から植え替え作業をしてくださいました。

ボーイスカウトも午後から自然教室に参加しました。

水はけの悪いところは根ぐされなどで根が十分伸びていませんでしたが、土壤改良を行ったので、これからは植栽苗木の生長はきっと良くなるでしょう。

当日はサポーター51人、ガールスカウト60人、ボーイスカウト10人あわせて121人のみなさんが参加してくださいました。

サポーターとボーイスカウトは午前中、植栽地の管理作業として、地球広場東側丸太階段下2段の土壤改良と植え替え作業をしてくださいました。

また、チップ堆肥づくりにも挑戦していただきました。

## 自然教室



## ■びわこ地球市民の森 森づくりセンターより「自然教室」について

子どもたちを対象とした「自然教室」は、毎回、生き物や森を中心とした話題とクラフト(工作)を取り入れています。そして、子どもたちに自然のしくみの精妙さを理解してもらったり、自然と接する楽しさやおもしろさを体験してもらって、積極的に自然に関わろうとする意欲を育てることを目的にしています。

今回は、葉のしくみと働き、柴笛の鳴らし方、ウグイス笛をとりあげました。

子どもたちは、目を輝かせて話を聞いてくれ、全員がウグイス笛を鳴らして満足そうな様子でした。

## ■「びわこ地球市民の森」での活動予定

- ・平成14年 4月29日(月) 「びわこ地球市民の森のつどい」
- ・平成14年 7月下旬 除草と病虫害防除、自然教室
- ・平成14年 10月下旬 植樹、寒肥やり、自然教室



今回から森づくりサポーター担当が林務緑政課から森づくりセンターおよび都市計画課に変わりました。

「びわこ地球市民の森」森づくりサポーター事務局

住所 〒524-0101 守山市今浜町3089

・びわこ地球市民の森・森づくりセンター

担当: 古川、中村 (TEL077-585-6333)

・滋賀県庁 都市計画課 公園緑地担当

担当: 木内、中島 (TEL077-528-4184)

# 森づくりサポーターニュースNO. 3

■ 2002. 4. 29 (月) みどりの日  
に「びわこ地球市民の森のつどい」を開催しました。

つどいでは、森づくりこの1年の経過報告が行われ、2001年の「滋賀県植樹の集い」から1年間に、4,200人の市民から11,500本もの苗木が植樹され、苗木も自然の試練を受けながら少しづつ成長している状況が報告されました。

〈森づくり気軽にトーク参加者〉



これと並行に森づくりセンターでは自然教室が開催され、植物を使った遊びの紹介、ゲームなどで楽しく学んでいただきました。

この後、2年目の森づくりが行われ、参加者により、森づくりセンター西側の築山に、アラカシ、クヌギ、ウツギなど11種1,600本の新たな苗木による植樹を行いました。

また、来年からの植樹苗木アラカシ、コナラのホームステイを参加者の皆さんにお願いしました。

〈森づくりこの1年の経過報告〉



つづいて、森づくり気軽にトーク（子どもたちと知事との対話）では、次のような質問や意見がありました。  
「びわこ地球市民の森のキャッチフレーズは何ですか？」

「バードウォッキングができる施設を作ってください」

「雨の日も楽しめる場所を作ってください」

「木の名前が一目でわかる地図が必要です」

「森では空気の汚れ方は他と違うのですか」

「破壊された自然を取り戻すのに一番大切なことは何ですか」

など、大人も思いつかないような質問が次々と出され、真剣に知事の答を聞きながらトーク体験をしていただきました。

〈2年目の森づくり苗木植樹〉



■裏面に"ビオトープとしての「びわこ地球市民の森」"を掲載しています。

■「びわこ地球市民の森」での活動予定

・平成14年7月27日(土)

平成14年度 第2回「森づくりサポーター活動」除草作業と自然教室

・平成14年10月下旬

平成14年度 第3回「森づくりサポーター活動」植樹、施肥と自然教室

■連絡先 :「びわこ地球市民の森」森づくりサポーター事務局

・びわこ地球市民の森「森づくりセンター」

担当:古川、中村 (TEL077-585-6333)

・滋賀県庁 都市計画課 公園緑地担当

担当:木内、中島 (TEL077-528-4184)

# ビオトープとしての「びわこ地球市民の森」

(シリーズNO. 1)



びわこ地球市民の森

森づくりセンター 中村 實

「びわこ地球市民の森づくり」は旧野洲川南流廃川敷地(守山市内)を活用して行われています。この平成の「森」づくりの意義は次のように考えられます。

ひとつは、地球温暖化防止対策としての「森」づくりです。

20世紀、人類はあまりにも大量の化石燃料(石油、石炭)をエネルギー源として産業、交通機関そして家庭で消費してきました。

その結果、空気中の二酸化炭素などの温室効果ガスが急激に増加し、地球環境の温暖化が進行しているといわれます。

このままの状態が続けば、近い将来、気候の変動によるムギ、コメ、トウモロコシそして野菜類など農産物の減収による食糧難が到来することが懸念されます。

また、高山の氷河や北極・南極の氷が解けて海面が上昇し、標高の低い陸地が水没することも懸念されています。

若い樹木は、盛んに光合成を行って成長し、空気中の二酸化炭素を吸収します。

従って、「森」づくりは地球温暖化対策として大変効果的な方法だといえます。

第二は、「森」づくりは、かつて農村は勿論のこと都市においても身近にあった自然林を長い年月をかけ、世代を超えて再生する試みです。

私たち人間は、これまで他の生き物の生息環境のことを考えずに、人間の都合だけで住宅地を広げ、工業用地を造成し、田畠を作り、山に植林をし、海岸や湖岸を埋め立て、人工的なダムや河川を作つて来ました。

この結果、多くの生き物が生息地・繁殖地をなくし、既に絶滅したり、絶滅の危機に瀕しています。

「森」がつくられると、森はキツネ、タヌキ、イタチなどの小型哺乳類をはじめ鳥類、爬虫類、両生類、節足動物、土壤生物など多くの生き物の生息場所(ビオトープ)になり、失われつつある平地部の生態系を豊かに復元していくことができます。

また、長くのびる「びわこ地球市民の森」は、かつての河畔林のように多くの生き物に移動場所として利用されることでしょう。

第三は、市民と行政が協働して「森」づくりを進めていることです。

多くの市民の皆さんがあなたが植樹活動などの「森」づくりの実践をとおして「自然と人の共生」の大切さを感じとったり、再生された森の中を散策し、憩われるなかで地域環境の保全から地球環境の保全にまで認識を高めていただくことができるでしょう。

今回は、平成の「森」づくりの意義を取り上げ考えてみました。

次回からは、「森とビオトープ」についてもう少し詳しく述べることにしましょう。

# 森づくりサポーターニュースNO. 4

■ 2002.7.27(土)びわこ地球市民の森 夏の「森づくりサポーター活動」を開催しました。

当日は、大人22名、ガールスカウト114名あわせて136名のみなさんが参加してくださいました。

今回は、今年4月29日みどりの日に2年目の森づくりで植樹していただいた幼木のまわりの雑草を刈取る作業をしていただきました。

うだるような暑さの中で、雑草と格闘しながら草刈りをしていただいた体験は日記とともにみなさんへの思い出に残っているのではないでしょうか。

(自然教室『竹の不思議』)



このあとサポーターの自由参加による意見交換会を行いました。この中では、次のような意見が出されました。

- ・活動回数を年4回程度にしてほしい。
- ・交通アクセスを良くしてほしい。
- ・いつでも（または定期的に）自由に活動したい。
- ・植樹はバランス良く。
- ・樹種が混在する森も良いのでは。
- ・自然の残っているところは活かして。下草も大事。学習、レクレーションの場に。
- ・植樹、育樹、調査にも参加したい。

蓄積されたデータを公開してほしい。  
(参考)別添アンケート集計結果を意見交換会の資料としました。

■裏面に中村 實さんの“森とビオトープ”シリーズNO.2を掲載しています。

■「びわこ地球市民の森」でのサポーター活動予定

- ・平成14年10月27日(日)秋の「森づくりサポーター活動」
- ・平成15年4月29日(火)みどりの日に開催予定

■連絡先：「びわこ地球市民の森」森づくりサポーター事務局

- ・びわこ地球市民の森「森づくりセンター」担当：古川、中村 (TEL077-585-6333)
- ・滋賀県庁 都市計画課 公園緑地担当 担当：木内、中島 (TEL077-528-4184)

(みんなでがんばった草刈り作業)



森づくりセンターでは自然教室が開催され、びわこ地球市民の森にもたくさん生えている竹の不思議について話があり、「竹は1日にどれだけ伸びるのか。」「竹は草の仲間か木の仲間か。」「竹には毎年花が咲くのか。」「竹にはどんな花が咲くのか。」「竹が堤防に多いわけ。」「竹藪は広がっているのか。」など竹の色々な不思議を学びました。

また、竹を使ってブンゴマなどの遊び道具の作り方や遊び方を習ったり、竹を焼いた竹炭が水をきれいにしたり、臭いを取つたりする働きがあることを興味深く学びました。最後に竹取物語の話を聞きました。

(サポーター意見交換会)



## 森とビオトープ

(シリーズNO. 2)

びわこ地球市民の森

森づくりセンター 中村 實

近頃、「ビオトープ」という言葉がよく使われます。この言葉は、実は生命を意味する「ビオ」 BIO と場所を意味する「トープ」 TOP の合成語で「野生生物の生息空間」のことです。

かつての地球上は、森林、草原、湿地、川、池、沼地、湖、海などさまざまなビオトープで埋め尽くされていました。ところが、産業革命以後、特に、最近の 50 年間は人間の諸活動のために急速かつ大規模に地球上の自然環境が破壊されてきました。

この先、少なくとも 1 世紀をかけてその修復に専念しなければ人類の未来はないとも言われています。この様な自覚のもとに、現在、全国各地で自然環境の復元運動「ビオトープ」造りが盛んになってきました。

「びわこ地球市民の森」もビオトープです。植樹された樹木もこれから先 20 ~ 50 年も経てば立派に生育して、高木層、亜高木層、低木層、草本層など森の階層構造ができ、散策路やうつそうとした木々の茂みの中に多様な植物が美しい花や多くの種子をつけることでしょう

これらの花の蜜や花粉そして種子を求めてチョウやガの仲間を中心にハチ、カブトムシ、クワガタムシ等昆虫の仲間が増えてくるでしょう。さらに、これらの昆虫を餌とするシジュウカラ、ホオジロ、ヒヨドリ、ウグイス、モズ等の野鳥が季節の移り変わりに応じて森を訪れ美しいさえずりを聞かせてくれるでしょう。

やがて、タヌキ、テン、イタチ、キツネ、リス、ノウサギ、ノネズミ、モグラそしてコオモリなどの小型の哺乳動物も生息するようになるでしょう。

森の散策路や森の中にできる小川、池、沼地、湿地などの水辺環境の周辺には四季折々に咲く花が、森を訪れる人たちの目を愉しませてくれるでしょう。

この森が豊かなビオトープになるためには重要なことが二つ考えられます。

そのひとつは森の中に多様な環境を作ることです。日照の良いところ、日陰になるところ、湿地のように土壌水分の多いところ、乾燥したところ、風通しの良いところ、悪いところ、池や沼の水深の深いところ、浅いところ、池や川の底が砂質のところ、泥質のところ等です。これらの場所には、やがて、それぞれに適した生き物が生息することでしょう。

第二はいわゆる「聖域」(サンクチュアリ) = 「むやみに人が立ち入らない場所」を設け、野生動物の採餌場所、営巣場所、隠れ場所、活動場所として保護する必要があります。すなわち、野生生物にとって生長や繁殖が保証され、自立的、継続的に生存していくまとまりのある空間を森の中に 1 ~ 3 カ所作ることが大切です。次からは、森の機能(はたらき)について述べることにしましょう。

# 森づくりサポーターニュース No.5

◆2002.10.27(日)に、びわこ地球市民の森に於いて、秋の「森づくりサポーター活動」を開催しました。当日は大人36名、ガールスカウト40名あわせて76名のみなさんが参加してくださいました。

今回は春に植えた森づくりセンター北側の築山の植樹地で苗木の成長を促すために肥料を施していただきました。

また、この「つどいのゾーン」には、14種類の高木が223本植わっていますが、木の名前がついていないので樹木名が分かるように名札付けをお願いしました。



◆ガールスカウトのみなさんは自然教室で「ドングリで遊ぼう」と題して、いろんなドングリの種類を学んだり、ドングリの「コマ」づくりなどを楽しみました。

最後にドングリをポットに植えて春に芽が出るのを楽しむ「ドングリの苗作り」も行うなど楽しい一日を過ごしていただきました。

みなさんご参加ありがとうございました。

名札は、スギの間伐材を輪切りにしたものに樹木名を書いていただき、あと、札が腐蝕しないようにニスを塗っていただきました。良く乾いてから樹木に名札を取り付ける作業をお願いしましたが、皆さんで樹木を探しながら楽しく取り付けを行っていただきました。サポーターのみなさんは樹木名を良く知っておられる方が多くスムーズに終了することができました。

特に樹木に札を取り付ける紐の結び方も「止め結び」といった専門的な結び方をしている人もあり感心しました。



◆平成15年度森づくりサポーター活動等の予定（内容については変更することがあります。）

4月27日(日)びわこ地球市民の森のつどい（苗木植樹および森の自然教室）

7月26日(土)森づくりサポーター活動（植樹木の下草刈りと自然教室）

10月25日(土)森づくりサポーター活動（植樹木の間引きと自然教室）

3月 6日(土)森づくりサポーター活動（植樹木への施肥と森の勉強会）

◆裏面にびわこ地球市民の森・森づくりセンター中村さんの第2弾「森は緑のダムである」を掲載

◆連絡先「びわこ地球市民の森」森づくりサポーター事務局

・びわこ地球市民の森・森づくりセンター 滋賀県庁 都市計画課 公園緑地担当

担当：古川、中村(077-585-6333)

担当：木内、中島(077-528-4184)

## 「森は緑のダムである」

今回からは、森のはたらきについて考えてみましょう。私達、滋賀県に住むものはびわ湖へ流れる川の水や直接びわ湖の水を利用して水道水の原料にしています。

雨が降ると川の水は急に増水しますが、やがてじょじょに減っていきます。しかし、すぐになくなることはありません。川の水は、上流にある山の森林地帯に貯えられ細い谷川に流れ出でます。

いくつもの細い谷の流れが寄り集まって次第に大きな谷になり、やがて川となってびわ湖に流れ込んでいるのです。川の中流や下流には、沢山の人々が住み、町をつくり、いろいろな産業活動や商業活動をしています。

人々の生活や産業活動には多くの水がいります。このため、川にはいつも十分な水がなければなりません。そこで、ダムをたくさん作って山地に降った雨を集め、水をうまく利用できるように調節しています。

しかし、ダムを作ると必ず自然を大規模に壊し、その場所にすんでいた人々の生活とふるさとをうばいます。このため、ダムをむやみにつくることは出来ないです。そこで、たよりになるのは森林が水をためる働きです。

降った雨は、森林の葉っぱや小枝、そして、落ち葉に小さなしづくとなってたまつたり、やわらかい土にどんどんしみこんでいきます。

細かいすき間があるスポンジがたくさんの水を吸い込むことができるのをよく知っていますね。土にしみこんだ水はたくさんある細かいすき間にどんどん貯えられ、土の中をゆっくりと時間をかけて移動しながら少しずつ谷川に流れ込んでいきます。また、地下深くにしみこんで地下水となるものもあります。

大雨が降っても、水が一度に谷川に流れ出ませんから川の水は急に増水しません。また、天気が長い間続いても、川の水はかれることはありません。また、細かいすき間がある土の中をゆっくりとうごしていくうちに水の中の汚いものがこしとられて水はきれいになります。

山に木がはえていないはげ山の場合はどうでしょう。はげ山は、ほとんどが岩や、小石です。土はあっても、ほとんどが粘土質で水を貯えることはできません。台風がきたたり、梅雨の時期のように大雨が降ると、水は一気に谷川に流れ出して川の水は急に増水し、下流ではたびたび洪水がおこるようになります。反対に、雨が長い間降らないときは、川の水はかれてなくなってしまいます。

このように、山地の森林は、洪水を防止したり、長い間水を貯えるダムの働きをしているのです。この森が水を貯える働きを人間が作ったダムにたとえて、「森は緑のダムである」といわれます。

世界の国々のなかには、飲み水が汚れていたり、不足して困っている国がたくさんあります。世界中の人々が集まって、水のことを考え相談する「第三回世界水フォーラム」が3月16日から9日間、京都府、滋賀県、大阪府で開催されます。

私たちも、毎日、使っている水にもっと強い関心を持つとともに、森のはたらきに感謝し、水を大切に使いましょう。